

# ユーラシアンホットライン

## アジア・シルクロード音楽フェスティバル

### 笛と太鼓の祭典第 7 回愛川町音楽祭開催

**サハとの交流を継承し、実行委員会招集 10 回。過去最高の 315 人の聴衆。**

### 第 8 回愛川町音楽祭をサハ共和国の首都ヤクーツクで開催を検討！

7 年前の 2010 年夏、サハ共和国の伝統文化再生を目指すサハ共和国国立劇場専属民族音楽家ゲルマン・クラウディア夫妻（ハトラエフ夫妻）からの要請を受け、サハ共和国の首都ヤクーツクから青少年太鼓グループ「テティム」の子どもたち 18 人（ハトラエフ夫妻と通訳、子どもたち 15 人）を愛川町で受入れ、繊維産業会館二階の和室で宿泊し、愛川高校和太鼓部の協力で武道場での研修と研修成果の発表を行う第 1 回音楽祭が開催されました。子どもたちを指導したのは元鼓童のトップミュージシャン金子竜太郎さん。翌年発生した東日本大震災による原発のメルトダウンを考慮し、2 年間研修はやめていましたが、金子さんはヤクーツクに通い指導は続けられました。その間も、ハトラエフ夫妻から愛川町での研修の要望は続き、2013 年夏、受け入れ再開。しかし、予定していた宿泊場所が使用できないことになり、急遽愛川町町長に協力を要請し、農村環境改善センターに宿泊することになり、音楽祭も農村環境改善センターで開催された。2014 年には「テティム」の女子部「キース・ホトゥン」が来日し、愛川町文化会館で成果を披露し、大磯の河岸で海水浴を楽しんで帰国した。2015 年は「テティム」は春と夏の 2 回来日し、春には愛川町農村環境改善センターを練習場として使用する愛川町、厚木市、相模原市の和太鼓団体に呼びかけ、国際交流春祭りを開催。太鼓を絆にした国際交流が開催された。夏には第 6 回音楽祭が愛川町農村環境改善センターで開催された。



そして今年も春と夏に来日する予定であったが、昨年秋以降、ロシアのルーブルの為替が急落し、今年に入って急遽来日取りやめとなった。しかし、3 年前、愛川高校和太鼓部卒業生が結成したユニット「打縁」



を中心とした音楽祭の開催を決定し、サハ側に音楽祭冒頭のビデオメッセージを要請し、打縁プロデュースの音楽祭に変更。



第7回愛川町音楽祭「アジア・シルクロード音楽フェスティバル—笛と太鼓の祭典」は、昨年秋から今年3月まで11回の実行委員会を開催し、打縁が中心となって音楽祭のプログラム作成、チラシの作成、進行プランの作成、海老名における告知ライブ、3月30日から2週間にわたる音楽祭を中心とした資料展示会の開催等について協議し、4月2日の音楽祭には過去最高の315人の聴衆を集めて、笛と太鼓を軸とする音楽祭を楽しんでいただいた。

今回は初めて実行委員会を通じた作業分担ができたことで、これまで手薄となっていた集客や特に今回は展示、海老名ライブなどを協力して実施することが可能となり、本来のアートマネジメントで欠かすことが出来ない名簿管理に取り組むことが出来、今後に見通しが出てきた。

音楽祭のプロデュースに、愛川高校和太鼓部卒業生を中心に結成された「打縁」のメンバーが本格的に取り組み、今後に関与した体験をしたことや、唐ロー之やパンチャラマ等プロのミュージシャンとのコラボが実現し、表現者集団として貴重な一歩を進めたと判断された。

第7回の音楽祭に至る経過の中で、愛川町で60年前に途絶えた「八菅太鼓」が復活され、音楽祭に先立つ3月28日、八菅神社例大祭で披露する機会が与えられ、八菅自治会では今後毎年八菅太鼓の継承団体として例大祭での「打縁」の演奏が実現する見通しとなった。

今後より地域密着型の音楽祭として展開できる見通しが得られ、画期的な音楽祭となった。

サハ共和国の伝統音楽の再生を目的に始まったサハ共和国の青少年太鼓集団「テティム」を愛川町で受入れ、愛川高校和太鼓部の練習場と太鼓をお借りしての研修は、佐渡島の鼓童のトップミュージシャン金子竜太郎から愛川高校和太鼓部創設者赤川猛さんへとバトンタッチされ、昨年には春夏二回の研修が実施された。今年はロシアのルーブルの通貨危機が原因で「テティム」の愛川町訪問は途絶えたが、昨年夏から「打縁」の創設者綱島健司がサハ共和国の首都ヤクーツク市にある北東連邦大学に留学し、現地で「テティム」の太鼓指導に協力しているほか、音楽祭には「テティム」からビデオメッセージが届くなど交流は続いている。今年の夏には、愛川町からサハ共和国に訪問団が検討されており、来年以降もサハとの協力は進展する。全国でもユニークな国際交流は、サハ共和国では、テティムが一大文化集団として成長し、4月29日にテティムのコンサートが開催され、愛川町での研修成果として受け入れられている。愛川町では、愛川高校和太鼓部と卒業生ユニット「打縁」が愛川町を代表するレベルの高い太鼓集団として全国的にも注目されている。伝統文化を若者たちが継承する国際交流の意味は大きい。

「打縁」の創設者綱島健司さんが北東連邦大学に留学中に「打縁」をヤクーツクに派遣し音楽祭を開催することを考えていたが、2017年春、アジア・シルクロード音楽フェスティバル第8回愛川町音楽祭「笛と太鼓の祭典」をサハ共和国の首都ヤクーツクで開催する計画を相談している。

---

## 日本橋三越本店で「アジア・シルクロードウィーク」開催方法について再検討

中央アジア7カ国の大使館と共催し、日本橋三越で開催を計画していた「アジア・シルクロードウィーク」開催の補助金申請は採択されず、開催方法について再度三越、名橋「日本橋」保存会と協議することになりました。

補助金不採択の理由は知らされていませんが、漏れ何うところでは、「日本橋を時空を超えたアジア・シルクロードの終着駅」とする私（大野遼）の提唱が、審査委員の理解を得られなかったようです。江戸歌舞伎誕生の背景に、モンゴルが中国を支配した際に誕生した三弦（三線、三味線）と仏教伝来に伴うソグド系曲項四弦琵琶が琵琶法師澤住検校の掌で邂逅した、壮大なアジアの音楽史があったということも、日本の教科書には記されていないことから、日本の「常識」では理解の範囲を超えているということのようです。

ただし、日本橋三越の担当者は、8年前も三越劇場でアジア・シルクロード音楽フェスティバルを開催した経緯から、ユーラシアンクラブとの協議を提案していただいています。三越本館屋上にある野外劇場を使用したファミリー向け事業として、コンサートやファッションショーを実施する方向で引き続き相談することになっています。

私は、15年以上にわたる、音楽を通じたアジア諸民族の文化理解の促進活動を通して、日本の音楽文化の土壌が形成され、江戸歌舞伎が誕生したのは時空を超えたアジアの音楽史があることに気づき、アジア・シルクロード音楽フェスティバルをアジアの優れたミュージシャンと一緒に展開し、10年ほど勤めていた文化庁による文化のまちづくり推進事業を展開する芸術情報プラザのトータルアドバイザーとして、全国の都道府県市町村の文化行政職員や公立文化施設職員の研修をする中でも、この考え方を普及してきた。トータルアドバイザーの最後の仕事では文化芸術振興基本法成立にも陰ながらお手伝いし、これから日本の文化芸術の基盤整備が進展すると思っていたところに、自治省主導で、元首相が



強力なリーダーシップを発揮し、文化施設の「指定管理者制度」を導入し、文化施設を地域の芸術文化の中核施設としようとする潮流を破壊しました。これに抗議する形で私はトータルアドバイザーを退任した。

アジアとつながる日本の文化の土壌は、未だに日本の教育現場では教えられておらず、今後、私の晩年の仕事として執筆しておくことにします。また幕末明治以降「文明開化」「欧米化」が日本の政治路線の基調になってきたことによる、日本人の偏った世界観への深刻な影響はさまざまな方向に顕著に見られており、私の日本での活動が困難となる理由となってきました。これも「アジアの眼」という視点で整理されなければならない。

ユーラシアンクラブの今後の活動については、江藤セデカ理事長、バーボルド副理事長を支え、新体制移行を助言しながら、私のできる範囲の活動は続けていくことにします。

私は、この数年来の活動を通して、中央アジア 7 カ国は、特に日本に置いて連携を強め、アジア・シルクロードアンテナショップを協働して設置し、7 カ国の若者がここで仕事をしながらユーラシアンクラブを支え、中央アジア連邦もしくはシルクロードユニオンを形成し、永世中立国を目指す担い手となるのが、アジアの平和と安定に役立つと考えるようになった。日本も永世中立国となるのがベストであるという考えに至っている。日本国には「中央アジア+日本」という外交戦略があるが、私の考えでは「中央アジア+日本=永世中立国」ということになる。

しかし、日本の政治が右往左往することになるのは明らかで、1960 年以降、日本は日米安保を基軸とし、幕末明治以来の欧米化路線を踏襲してきているが、ロシア・中国とアメリカの狭間で、政治的存在感の希薄な国となりはじめています。おりしも、アメリカの大統領選挙では、民主党でも共和党でも日本について理解の不足している大統領候補が決定された。時代は、国家民族宗教の終焉の時代と受け止めている。人類が未来につながるよう最後の努力をしたい。

## トルクメニスタン共和国アハルテケウィーク参加報告書

NPO ユーラシアンクラブ 会長 大野遼  
NPO ユーラシアンクラブ 理事長 江藤セデカ

このほどトルクメニスタン共和国で開催されたアハルテケをテーマにした、国際見本市、アハルテケの飼育場、アハルテケのビューティコンテスト、アハルテケの競馬などを視察する機会を得て、トルクメニスタンの首都アシガバートを訪問した。東京にあるトルクメニスタン共和国大使館のご配慮で、アシガバートで開催された素晴らしい馬のフェスティバルに参加する機会を与えられ、大変満足した。

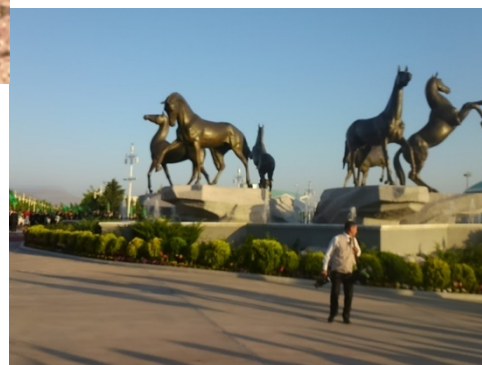


トルクメニスタンは、ギネスブックに掲載された大きさ 24m×40m の世界最大の手織り絨毯で知られる絨毯と太古の昔から天馬（ペガサス）の子孫とされる名馬アハルテケを国章に表象する国である。

今回の催しがいつから始まり、催しの全容やどんな機関、団体の人々が参加しているか、などについては最後まで不明だったが、たくさんさんのトルクメニスタン市民だ

ットワークがトルクメニスタンで形成されたと受け止めた。

けでなく、世界各地からの招待客、代表団そして馬術や馬飼育の専門家たち、またヨーロッパや南アメリカ、中央アジアからのマスメディア関係者が参加した。私たち（会長の大野遼、理事長の江藤セデカ）が宿泊したアシガバートホテルには、33 カ国 181 人が宿泊しており、他に 2 つのホテルにも世界のアハルテケ飼育関係者、馬具、馬具装飾、牧場経営者、競馬会、医療関係者などが宿泊していたようで全体では 300 人近い世界の馬事関係者が参加、トルクメニスタンの名馬アハルテケを絆に集まる騎馬・遊牧畜産文化情報ネ





私たちは、食事の席で知り合ったキルギスやアゼルバイジャンの牧畜関係者から、アハルテケとは品種の異なるモンゴル系の原生種の馬やアゼルバイジャンのカラバフと呼ばれる馬の飼育について知ることができた。キルギスのナリンで飼育されているという数百頭の馬については、イシククル湖東端にあるブルジョワルスキー博物館で「ブルジョワルスキー馬」と呼ばれたモンゴル馬について認識していたがアルタイ山脈中央に位置するナリンの牧場で現在も飼育されているという。歴史的には、フェルガナ盆地の東端に位置するキルギスのオシュに「天馬」「汗血馬」と呼ばれた名馬がいたとして知られ、現在でもアハルテケによく似た馬種がいて、モンゴル馬と「天馬」系馬の接触地域となっているが、トルクメニスタンとカスピ海を挟んで西端にあるアゼルバイジャンのカラバフと呼ばれる馬種は、英国のエリザベス女王を通してアイルランドに持ち込まれ、育種が行われ、アゼルバイジャンの人々の誇りとなっていることを知った。

パキスタンから「アハルテケ見本市」に参加した馬具づくりの関係者、ドイツ、英国、フランス、アメリカ、ロシア、イタリア、ウクライナの牧畜関係者は、私たちと同じ招へい者リストにあり、アハルテケの飼育場見学ではカナダ、中国、その他世界各地から参加した馬事関係者とも出会ったが、ほぼ全員の参加者が、アハルテケのスピード、耐久力、賢さという名声を認め、見本市、アハルテケのビューティコンテスト、最終日 24 日のアハルテケ 7 レースの熱闘を楽しんだ。

21 日は、「アハルテケ見本市」（トルクメニスタン貿易産業センター展示場）で終日過ごした。トルクメニスタンだけでなく、世界が注目するアハルテケを絆に出品された、鞍や鎧、馬具装飾、銅像、絵画、絨毯、医療情報、牧畜産業を紹介する書籍、などアメリカ、ドイツ、パキスタン、ブルガリア、キルギスなど世界中のブースが

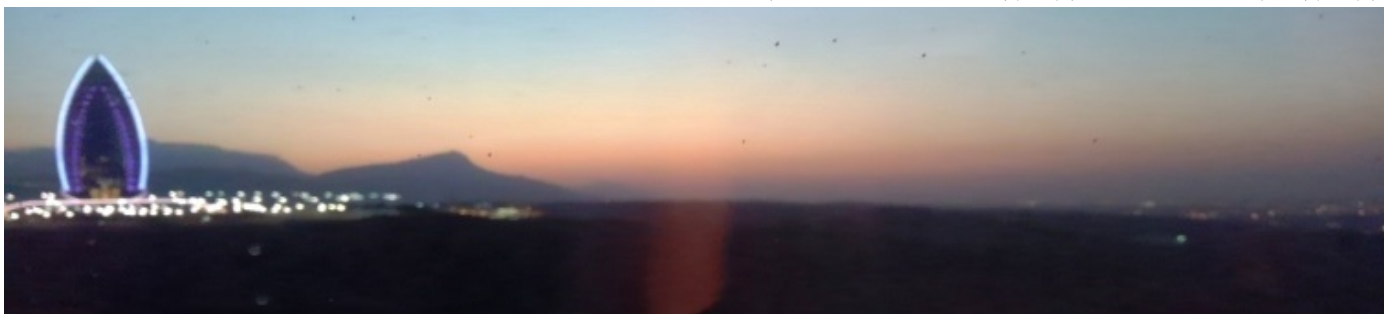
立ち並んでいた。展示はしているが、人が少なく、見本市は祭典に参加した人を対象の催しと思われた。見本市会場の隣には、300 人ほどの参加者が大きな丸テーブルをいくつも囲む昼食が用意されていた。21 日は終日見本市会場で過ごし、見本市参加者への「参加賞」授与式が行われた。

22 日は、アハルテケが名づけられた歴史的場所に誕生したアバ アナエフ村



に設置された国際競馬コンプレックスの開所式に臨んだ。開所式は、厩務員や騎手の住居用建物群横で行われ、国旗を振る人々が道路の両側に大統領の到着を待つ、恐らく 1 万人以上の住民、学生、子どもたちが立ち並ぶ中を大型バス 6、7 台が到着、会場に案内された。ドタールやギジャックなどの演奏、男性歌手 4 人の歌、子どもたちや男女学生による舞踊で盛り上がる中、大統領が到着。建物の一つに入り視察し、アシガバード駐在大使らの見送りを受けて退出した後、アハルテケを飼育している施設やアハルテケのいる厩舎、この春生まれた多くの仔馬と母馬が放牧されている一角を見学した。広大な飼育施設は、コペトダグ山脈北麓の羊の放牧地が広がるような丘陵に接した、ギョクデベの一角にあり、トルクメニスタンを象徴するアハルテケ文化発信の地としてふさわしいと思われた。

23 日は、トルクメニスタン大統領名アハルテケ競馬総合施設で開催されたアハルテケのビューティコンテストという催しとアハルテケ飼育関係者である若者の結婚式を祝うイベントを観覧した。午後は、トルクメニスタン絨毯博物館、トルクメニスタン国立博物館、





独立記念碑を訪問した。市場や永世中立の塔などの見学予定もあったようだが時間不足で訪問先から外された。同行した江藤セデカ理事長によると、アフガニスタンの絨毯はトルクメニスタンの絨毯の影響を受けているという。確かにアハルテケやテケという地域の絨毯の色合いは、アフガニスタンの絨毯として目にしたものに似ているような気がした。ヨムドの絨毯はカラフルで、温かみがある。トルクメニスタンの国旗に使用されているトルクメニスタンの 5 地域を示す特色ある絨毯は、セルジुकトルコ時代に遡り、中央アジアの絨毯製作に影響を与えてきたのかもしれない。ギネスブックに載っている重さ 200 トンの絨毯は迫力があつた。



私 (大野) は今回、できればバクトリア・マルギアナ複合と称されるメルブのマルグシュ遺跡まで足を延ばしたかったが果たせなかった。しかし国立博物館でマルグシュの出土品を目にすることが出来た。かねてから、発掘責任者の V.サリアニディ氏による「アーリア人の故地」説ではなく、シュメール・インダス文明に関わる青銅器を中心とした交易ネットワークの拠点となった都市と考えたが、洗練された出土品を目にしてこれを確信することが出来た。



24 日は、再びアバ 穴エフ村の国際競馬婚プレクスを訪ね、競馬場で開催されたアハルテケ 7 レースを見学した。観覧者には、出走する馬と騎手の情報がカラーのパンフレットで紹介され、1000m、1600m、1800m、2200m、2400m の 7 レース (各レース 10 頭) が行なわれ、各レースとも 1 位から 3 位入賞の騎手にトヨタや「現代」の乗用車計 21 台が賞品として授与され、アハルテケで走り込んだ騎手は車で退場した。

今回参加したアハルテケを表象する一週間にわたるフェスティバルは、国際アハルテケ協会がトルクメニスタン政府と共催したようである。

それぞれの催しには、アシガバードの住民、男女学生、子どもたちが世界各地からの参加者を歓迎する為動員されていた。また大統領警護の治安関係者も多数に上り、招へい者の航空券、宿泊、食事、移動交通費などの招へい費用も厩大な額となったと想像される。しかし、アハルテケという歴史的名馬を国章に使用する永世中立国が、国際アハルテケ協会と連携して、世界の騎馬文化とつながる文化発信イベントとしてトルクメニスタンの意味のある国家事業と評価できる。今後も一層盛んになることを期待する。

以上

## <バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) 第 158 回研究会のご案内>

日 時： 2016 年 6 月 25 日 (土) 14:00~16:00  
テーマ：「2015-2016 年のバイオマス利用の動向—木質バイオマス利用を中心に—」 講演者： 泊 みゆき (NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク理事長) 会 場： 地球環境パートナーシッププラザ (東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学 1F)  
地下鉄表参道駅より徒歩 5 分・JR 他渋谷駅より徒歩 10 分  
<http://www.geoc.jp/access>  
参加費： BIN 会員 無料、一般 1,000 円

※NPO 法人バイオマス産業社会ネットワークでは、2003 年より、1 年間のバイオマス利用の動向をまとめた「バイオマス白書」を発行しています。※2016 年 5 月、バイオマス白書 2016 を発行します。第 158 回研究会では、バイオマス白書 2016 の内容をもとに、2015—2016 年のバイオマス利用の動向、特に木質バイオマス利用をめぐる、林業や、発電、熱利用の動向と課題を中心に解説します。※持

続可能なバイオマス利用をめぐる現状と課題について、参加者の皆様とともに活発なディスカッションができれば幸いです。※参加をご希望される方は、下記よりお申し込みください。

<http://www.npobin.net/apply/>

◆◆New!!◆◆日本エネルギー学会バイオマス部会主催、NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク共催の「バイオマス夏の学校」では、2016 年 8 月 30 日~31 日にかけて群馬県上野村ほかのバイオマス施設見学等を行います。(ご参加には、どちらかの団体にご入会いただく必要があります。) 詳細は、下記をご参照ください。

[http://www.jie.or.jp/2016/events/160830bio\\_natu.pdf](http://www.jie.or.jp/2016/events/160830bio_natu.pdf)

◆◆New!!◆◆2016 年 4 月 5 日に開催した、シンポジウム「点から面へ—岩手県の経験と今後の木質バイオマス熱利用拡大のための具体策—」の資料を、サイトにアップしました。

<http://www.npobin.net/research/>

◆動画「なぜ今、固体バイオマスの持続可能性基準が必要なのか?」

ユーラシアンクラブ ニュースレター第 176 号 2016 年 6 月 1 日  
を You Tube にアップしました。

<https://www.youtube.com/watch?v=CXpfxhiCzoQ&feature=youtu.be>

◆NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) では、会員を募集中です。個人会員 (年会費 3,000 円より) と法人会員があります。会員の方は、BIN 研究会に会員価格 (通常無料) でご参加できるほか、バイオマス情報などのメールマガジンやメーリングリストへの登録が可能です。詳しくは、当ネットワークホームページ (<http://www.npobin.net/>) の「会員制度」のページをご参照ください。会員の方で、e-biomass のタイトルのメールマガジンが送られていない方は、下記事務局までお問い合わせいただければ幸いです。

◆このご案内のメールは、会員以外の方にも無料でお送りしています。必要のない方は、その旨ご連絡ください。次回から送信しないようにいたします (転送されている場合は、転送元にご連絡くださ

い)。また、送付先メールアドレスの変更や新たに送付をご希望の方は、お気軽にご連絡ください。以上、何かご不明の点等ありましたら、お気軽に下記事務局までお問い合わせいただければ、幸いです。それでは皆様、気候不順の折ですが、どうぞご自愛ください。

\*\*\*\*\*

NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) 泊 みゆき

〒277-0945 千葉県柏市しいの木台 3-15-12

Tel:047-389-1552 Fax:047-389-1552

E-mail:mail@npobin.net

※インターネットプロバイダーのスパムメール対策を受けています。いただいたメールが (不通通知なしで) 届いていない可能性があるため、お手数ですが重要なメールの場合は、別途ご確認をいただければ大変幸いです。 <http://www.npobin.net>

\*\*\*\*\*

## インターネット版「バイオマス白書」公開

NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) では、インターネットサイト版「バイオマス白書 2016 サイト版 (本編)」を下記にオープンいたしました。作成にご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。 <http://www.npobin.net/hakusho/2016/> トピックス「木質バイオマス利用をめぐる現状と課題」の他、2015 年の国際・国内動向などについてまとめたものです。ご参考にして

いただければ、真に幸いに存じます。

また、バイオマス白書 2016 小冊子版 (ダイジェスト版) を 1 冊 200 円 (送料) にて、注文の受付を開始します。A4 版フルカラー 28p の小冊子です。

ご注文をご希望される方は、下記のページに要領がありますので、ご参照ください。 <http://www.npobin.net/data/>

## メディア・ユーラシア情報 ネットリサーチ

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。

### 【北アジア】

#### ○ 露外相「4島の帰属問題解決へ対話拒否しない」

2016 年 4 月 12 日 (火) 23 時 14 分配信 読売新聞

【モスクワ=緒方賢一】タス通信によると、ロシアのラブロフ外相は 12 日、外国メディアと会見し、日本との北方領土問題について「択捉、国後、歯舞、色丹の「4島の帰属を含むすべての問題を解決するための対話を拒否しない」と述べた。

これは 15 日の訪日時に行う岸田外相との会談で、領土問題について話し合う考えを示したものだ。

ラブロフ氏は、平和条約締結後に歯舞と色丹の 2 島を日本に引き渡すと記した「日ソ共同宣言」(1956 年) について「批准された唯一の文書である」と重要性をあらためて指摘し、4 島の返還を求める日本の立場をけん制した。

#### ○ 北方領土、現首脳間で解決

2016 年 05 月 7 日 10:12 JST

【ソチ共同】安倍晋三首相は 6 日午後 (日本時間同日夜)、ロシア南部ソチでプーチン大統領と大統領公邸で会談し、懸案の北方領土問題に関し、今までのアプローチとは違う「新たな発想」で交渉を進め、現首脳間で解決することで一致した。両首脳は 9 月に極東ウラジオストクで開く「東方経済フォーラム」に合わせ、再会談することで合意。首相は極東地方の振興など 8 項目の協力案を示し、プーチン氏は歓迎した。

会談は非公式の位置付けで、夕食会を含め約 3 時間に及んだ。両首脳は、プーチン氏の訪日日程も協議。首相は「協力の積み重ねの中で適切な時期を探ろう」と提案した。

<http://jp.reuters.com/article/idJP2016050601001831>

#### ○ 安倍首相とプーチン大統領会談しても「領土問題の進展はない」 露大統領府報道官 2016. 5. 4 22:00

【モスクワ=遠藤良介】ロシアのペスコフ大統領報道官は 4 日、露南部のソチで 6 日に予定される安倍晋三首相とプーチン露大統領の非公式首脳会談で、北方領土問題に関する「即時の大きな前進はまず期待できないだろう」と述べた。露主要メディアが伝えた。

ペスコフ氏は、首脳会談では領土問題に「何らかの形で触れられるだろう」とした上で、「このテーマはきわめて繊細であり、専門家レベルでの緻密かつ継続的な作業を要する」と発言。会談は「両国間の実務的で建設的な雰囲気醸成し、そのことによって専門家の作業が進捗することも可能になる」と述べた。

露大統領府はこれに先立ち、首脳会談では「貿易・経済と人文領域での 2 国間協力や焦眉の国際問題に関して協議される」と発表し、北方領土問題の解決に意欲を見せる日本側とは対照的な姿勢を示していた。

<http://www.sankei.com/world/news/160504/wor1605040046-n1>



[.html](#)

○ **露外務省、領土返還説は「たわごとだ」と否定 日露交渉の「新アプローチ」巡り** 2016. 5. 14 12:04

ロシア外務省幹部は13日、日露首脳が合意した北方領土交渉を巡る新たなアプローチに関し、日本の経済支援と引き換えに領土を引き渡すことだとしたロシアの一部メディアの報道を

「幼稚な考えで、たわごとだ」と否定した。タス通信が伝えた。

安倍晋三首相がロシア南部ソチで6日、プーチン大統領に提案した領土交渉を巡る「新たな発想に基づくアプローチ」は詳細が明らかになっておらず、臆測が飛び交っている。(共同)

<http://www.sankei.com/world/news/160514/wor1605140020-n1.html>

【西アジア】

○ **イランからのメッカ巡礼、サウジとの対立で今年は実現困難に** 2016年 05月 13日 15:18

[アンカラ 12日 ロイター] - 今年1月にサウジアラビアと断交した影響で、イランのイスラム教徒が9月のメッカ巡礼に行かれない見通しが強まっている。実施の詳細をめぐる合意が成立しなかったため、両国間で責任のなすり合いが生じている。

国営イラン通信(IRNA)は、ジャンナティ・イスラム文化指導相の発言として「取り決めができていない。もう遅い。怠慢はサウジの側だ」と伝えた。

一方、サウジの政府系ニュースサイトSABQに掲載された巡礼担当省庁の声明は、イランの代表団が今年の巡礼のための協

定調印を拒否したと述べている。

イランは、昨年の巡礼でイラン人464人を含む2000人が将棋倒して死亡する事故があったことなどから国民の安全を懸念し、ビザや輸送方法などでサウジに要望。サウジは受け入れられないとしている。

イラン当局者は、両国の当局者が協議を続けているが、これまでのところ合意に至っていないと述べた

<http://jp.reuters.com/article/iran-saudi-pilgrim-idJPKCN0Y40H4>

○

【中央アジア】

○ **永世中立、年内にも法整備=拉致問題で日朝仲介に意欲-モンゴル大使** 2016年3月17日(木)19時48分配信 時事通信

フレルバータル駐日モンゴル大使は17日、東京都内で記者会見し、エルベグドルジ大統領が昨年9月に「永世中立」を目指すと表明したことについて、年内にも法整備が行われるとの見通しを示した。その後、国連の決議で永世中立国として認めてもらおう方針という。

大使は「(モンゴルと南北で国境を接する大国)ロシアと中国の間で、どちらかに偏らない善隣友好を築くことをモンゴル外

交の第一の目標にし、独立を維持してきた」と指摘。永世中立は、この路線を継続していくことを示すものだと強調した。

また、北朝鮮と友好関係にあるモンゴルは、日本人拉致問題の解決に向けて日朝間の仲介に当たった経緯があり、大使は「日本と北朝鮮の対話を再開させるために、できる限りの仲介を行っていきたい」と述べた。

<http://news.nifty.com/cs/world/worldalldetail/jiji-2016031700876/1.htm>

【南アジア】

○ **バングラでイスラム政党党首の死刑執行、治安悪化の恐れ** 2016. 5. 11 10:35

【ニューデリー=岩田智雄】バングラデシュで11日未明、1971年の独立時の戦争犯罪を裁く特別法廷に死刑を言い渡されていた野党のイスラム保守政党、イスラム協会(JI)のニザミ党首(73)の死刑が執行された。JIは12日から抗議のストライキを行うとしており、治安が悪化する恐れがある。

現地メディアによれば、ニザミ党首はパキスタンからの独立時の戦争で、市民450人を殺害したなど3つの罪で死刑判決を受けていた。特別法廷で死刑判決を受け、執行されたのは、

J I 幹部4人と野党、バングラデシュ民族主義党(BNP) 幹部1人の計5人となった。ニザミ党首はかつて、BNPとJ I の連立政権下で閣僚も務めた。

バングラデシュでは過去、特別法廷の判決をめぐる、野党支持者と治安部隊の衝突が起き、多数の死傷者が出ている。11日の死刑執行を受け、治安当局は主要都市に数千人の警官らで警戒態勢を敷いた。

<http://www.sankei.com/world/news/160511/wor1605110022-n1.html>

【東南アジア】

○ **インドネシア虐殺を検証 最大200万人犠牲 「9・30事件」 大統領主導、国民和解へ** 2016. 5. 15 17:19

インドネシア政府はこのほど、50万~200万人ともいわれる共産党員らの大虐殺の端緒となった1965年の「9・30事件」の検証に乗り出した。「過去の人権問題の解決」を訴えるジョコ大統領が主導。事件から50年以上が経過しても真相

が解明されていない歴史の暗部にメスを入れ、加害者と被害者の和解につなげたい考えだ。

「大統領から65年の虐殺被害者の集団墓地を探すよう命令を受けている」。大統領側近のルフット調整相が4月下旬、記者団に明らかにした。検証の第1弾は政府が4月中旬、首都ジャカルタで開催したシンポジウムだった。元軍人、被害者や遺族ら計約200人が集まった。

共産党幹部だった父親が殺され、家族とともに 9 歳のときに投獄された経験を持つスベトラナ・ダヤニ・ニョトさん（60）は共産党支持者らへのむごたらしい拷問を詳述。共産党員の集まりで歌を披露したため逮捕され、7 年間投獄された元女

性歌手、ナニ・ヌライニさん（75）は「精神を病み、結婚もできなかった」と振り返った。（共同）

<http://www.sankei.com/world/news/160515/wor1605150024-n1.html>

## 【東アジア】

### ○ アングル：中国が「漁船団」に軍事訓練、南シナ海へ派遣 2016 年 05 月 3 日 11:07 JST

【白馬井（中国） 1 日 ロイター】 - 中国は、領有権を争う南シナ海へ送り込む漁船団の「高性能化」を進めており、海南島にある小さな港町、白馬井の漁船団は、軍事訓練や助成金はもちろん燃料や氷に至るまで、あらゆる支援を受けている。そうした訓練や支援には、海上演習や外国船舶に関する情報収集などが含まれていると、海南省当局者や同地域の外交筋、水産会社幹部らが最近行ったインタビューで明らかにした。

「海上で活動する民兵組織は拡大している。国がそれを必要としているからだ。また、国益を守り、国家への奉仕に携わりたいという漁師の気持ちもその一因だろう」と、同省政府の顧問は匿名で語った。

しかしこのような漁船団は、年間 5 兆ドル（約 532 兆 500 億円）の貿易を支える戦略的輸送路となっている同海域で、外国の海軍と対立するリスクも高めていると、外交官や海軍専門家らは指摘する。

南シナ海の南沙（英語名スプラトリー）諸島で中国が人工島を建設している付近では、米軍が海空から哨戒活動を行っており、昨年 11 月には B52 戦略爆撃機 2 機を飛行させている。米国政府は 2 月、南シナ海周辺での「航行の自由」作戦を増やす意向を明らかにした。

#### < 基礎的な軍事訓練 >

人民武装部の支部が漁師に基本的な軍事訓練を提供していると、この海南省政府顧問は話す。このような支部は、中国人民解放軍（PLA）と共産党の地方当局の監督下に置かれている。訓練の内容には、捜索・救助活動や海上災害対策、そして「中国の主権を守ること」が含まれると、南シナ海を専門とするこの顧問は明らかにした。

海上演習も行う訓練は 5—8 月に実施され、政府は漁師に「参加費」を支払うという。

また政府は漁師に助成金を出すことで、木製ではなく、鋼鉄製でより重量のある船舶を使用するよう奨励している。中国政府は少なくとも 5 万隻に全地球測位システム（GPS）装置も提供、外国船籍の船との遭遇など緊急時には海警局と連絡が取れるようになっていると、業界幹部は語る。

複数の海南島の漁師や外交官はロイターに対し、一部の漁船には小型の武器が搭載されていると述べた。

「主権を守る特別任務」が生じた際には、政府当局が漁船団と連携し、外国船舶の活動について情報収集させると、前出の顧問は明らかにした。

#### < インドネシアとの対立 >

政府当局と漁船団の連携は、3 月に南シナ海にあるインドネシア領ナトゥナ諸島で中国の漁船が拿捕（だま）されそうにな

ったとき顕著に現れた。

中国の沿岸警備艇は、漁船を連行しようとするインドネシア海軍を阻止するためにすぐさま介入、外交問題にまで発展した。中国政府はナトゥナ諸島の領有権を主張していないものの、漁船は「中国の従来漁場」にいたとしている。

中国国有の水産会社は、スプラトリー諸島へ定期的に運航し、軍事訓練や助成金の多くを受ける漁船団を支配していると、業界筋は話す。

中国の水産業が世界最大であるのは間違いないが、同国沿岸地域の水産資源が激減しており、領有権を争う海域で漁をする経済的必要性に迫られていると、漁師や業界幹部は口をそろえる。

国有企業である「Hainan South China Sea Modern Fishery Group Company」のウェブサイトには「軍民両方」とあり、目的の一つはスプラトリー諸島に「中国の国旗を掲げる」ことだとしている。

「主権を守ることは、政府の主な懸念事項だ」と、同社のゼネラルマネージャーである Ye Ning 氏は、海南省の省都、海口市にあるオフィスで説明。「だが言うまでもなく、自国の海域で普通の人々が漁をできることは当たり前であるべきだ。それもわれわれの目的の一つだ」と同氏は語った。

ロイターが入手した同社の会社案内によると、スプラトリー諸島に出航する漁師に燃料や水や氷を提供し、彼らが得た魚を買い取っているという。

#### < 危険がいっぱい >

「さまざまな外国船があるなかで漁をするのは、以前にもまして危険だ」と語るのは、閑散とした港町、白馬井の漁師である Huang Jing さんだ。白馬井の港には見渡す限り、鋼鉄製の大きなトロール漁船が並んでいる。

「でも、中国は強くなった。私たちを守ってくれれば、政府を信頼している」と Huang さんは語る。

また、私企業だが国から助成を受けている「Hainan Jianghai Group Co. Ltd」の会長を務める Chen Rishen 氏は、大規模な鋼鉄製トロール漁船団をスプラトリー諸島付近に送り込み、その漁獲量は何百トンにも上ると語る。一度の漁はたいい数カ月間に及ぶが、主に商業的な理由だとしている。

「外国の漁船がわれわれの領海に侵入して妨害しようとするなら、われわれは主権を守るという役目を果たす」と、Chen 氏は海口市で行われたインタビューのなかで答えた。

一方、中国政府は、南シナ海における領有権問題で漁船は使っていないとし、外務省の陸慷報道官は「このような状況は存在しない」と語った。

中国は漁船団が合法的に操業するよう措置を講じていると、同報道官は先月にも定例記者会見で語った。



<活動ルール>

Chen氏はまた、同氏の会社に属する漁師たちが、燃料補給や中国沿岸警備艇との連絡のために西沙諸島(同パラセル諸島)の永興島(同ウディー島)に立ち寄っていることを明らかにした。中国は2月、同島に地对空ミサイルを配備している。

漁師たちは、中国がスプラトリー諸島でも建設中の同様の施設を利用することを心待ちにしていると、Chen氏は言う。これまでのところ中国は、同諸島に滑走路1本を完成。そのほか2本の滑走路と補給施設などが建設中である。

「こうしたことは全て、同海域で活動する各国の民間船と警備艇の間で効果的なコミュニケーションを取るための協定合意が必要なことを示している」と、人道対話センターのアジアディレクターを務めるマイケル・バティキオティス氏は指摘する。同センターは、領有権を主張する国々がそのような信頼を構築するための措置を講じる手助けを行っている。

連絡や手続きに関する地域的な協定は、敵対する海軍同士の艦船や他の軍艦にのみ適用されていると、同氏は指摘した。

(Megha Rajagopalan 記者 翻訳:伊藤典子 編集:下郡美紀)

<http://jp.reuters.com/article/angle-china-fishing-boats-idJPKCNOXT0FB?rpc=223&sp=true>

○ **【フィリピン大統領選】**

**『暴言王』ドゥテルテ氏が圧勝、有力女性候補ら敗北認め** 2016.5.10 20:30

【ダバオ=吉村英輝】9日に実施されたフィリピン大統領選は、南部ダバオのロドリゴ・ドゥテルテ市長(71)が、民間選挙監視団体の非公式途中集計(開票率93%)で、得票率39%の約1552万票を獲得し、次点候補に600万票以上の差をつけて圧勝し、当選を確実にした。議会による当選の宣言を経て、6月30日に就任予定。

グレース・ポー上院議員(47)とマヌエル・ロハス前内務・自治相(58)は10日、それぞれ記者会見し敗北を認めた。異議申し立てを受けてドゥテルテ氏の勝利がゆらぐ可能性はなくなった。

一方、大統領選と同時に実施された副大統領選では、故マルコス元大統領の長男フェルディナンド・マルコス上院議員(58)と、アキノ政権が後押しするレニ・ロブレド下院議員(52)の接戦が続いている。

<http://www.sankei.com/world/news/160510/wor1605100031-n1>

**【女性・子ども・若者・高齢者・難民】**

○ **16歳少女の首絞め、燃やす 駆け落ち手伝ったと地元会議が「刑罰」決定 パキスタンに残る「名誉殺人」とは…**2016.5.5 21:44

パキスタンの警察は5日、北部アボタバードで、ジルガと呼ばれる地元の会議の決定により、16歳の少女が首を絞められて殺害され、火を付けられて燃やされたと明らかにした。少女が友人の駆け落ちを手伝ったことへの「刑罰」とされる。同国メディアが報じた。

パキスタンでは、親が認めない相手と交際や結婚した女性らを家族の名誉を汚したとして殺害する「名誉殺人」が度々起きている。

**【東京オリンピック】**

○ **東京五輪招致で仏検察が捜査**

[.html](#)

○ **【北朝鮮情勢】**

**金与正氏は「秘書室長」の役割 「兄妹政権」が稼働 1人の人物像、事実上のナンバー2とも** 2016.5.12 21:57

【ソウル=藤本欣也】北朝鮮の朝鮮労働党第7回大会で、金正恩(キム・ジョンウン)委員長の実妹、金与正(ヨジョン)氏の存在がクローズアップされ、独裁が強化された政権内での役割に注目が集まっている。

党大会閉幕翌日の10日、平壤の金日成(イルソン)広場で挙行された市民の祝賀パレード。ひな壇の中央に立つ金委員長が、朝鮮少年団員から受け取った花束を傍らの女性に手渡した。白い歯を見せて笑みを浮かべていたこの女性こそ、与正氏だった。

今年29歳とされる与正氏は金委員長のたった1人の妹だ。3つ違いとされる兄同様、スイスの国際学校に留学。帰国後、金日成総合大学で学んだ。初めて姿が公になったのは、父、金正日(ジョンイル)総書記が死去した2011年末、兄とともに弔問者を迎えたときだった。

兄の視察日程と出席行事を取り仕切り、ガールズバンド「牡丹峰(モランボン)楽団」の公演の演出や、兄の夫人のファッションも手掛けたとされる。14年ごろ、政権の正統性を内外に伝える党宣伝扇動部の副部長に就任。現在は、金委員長の事実上の秘書室長の役割を果たしているとされるが、ベールに包まれた部分が多く、既婚・未婚も定かではない。

今回の党大会で与正氏は中央委員129人の内の1人に選ばれたものの、党指導部の政治局入りはせず、部長にも昇任しなかった。ただ、「金委員長が最も信用している人物」との見方は強く、指導部ポストはあえて避けた可能性がある。

金日成広場のひな壇で、最高幹部らが緊張しながらぎこちない笑顔を浮かべる中、与正氏だけが見せていた屈託のない自然な笑顔に、彼女の党内での特別な地位がうかがえる。

韓国紙、朝鮮日報は政府消息筋の話として、与正氏は「ナンバー2の役割」を果たし、「金正恩・与正『兄妹政権』が稼働し始めた」との見方を伝えた。

<http://jp.reuters.com/article/analysis-south-china-sea-vietnam-idJPKBNOU10S020151218>

地元英字紙ドーンによると、少女の遺体は4月29日、集落内で燃えた車の後部座席から見つかった。これまでに少女の母親とジルガのメンバー計13人の身柄が拘束された。

有力人権団体「パキスタン人権委員会」によると、2015年に同国内で発生した「名誉殺人」は987件に上った。(共同)

<http://www.sankei.com/world/news/160505/wor1605050051-n1.html>

【パリ共同】国際陸連のラミン・ディアク前会長（セネガル）らによるドーピング隠蔽に絡んだ汚職を捜査しているフランス司法当局は 12 日、2020 年東京五輪招致を巡り多額の資金が振り込まれたとされる疑惑に関して、予審判事らによる捜査が始まったことを明らかにした。検察当局が声明を発表したもので、招致疑惑は新たな展開を迎えた。

声明によると、日本の銀行から 13 年 7 月と 10 月に「東京五輪招致」の名目で、ディアク前会長の息子に関係するシンガポールの銀行口座に計約 2 億 2300 万円が振り込まれたことが判明。同じころに前会長側がパリで多額の金銭を支出していたことを確認した。

<http://jp.reuters.com/article/idJP2016051201001496>

○ 「東京五輪中止、ロンドン開催」の可能性が本格浮上 もはや「誰も望まない五輪」への変貌と、森喜朗会長の「戯言」 2016 年 5 月 17 日(火)20 時 51 分配信 ビジネスジャーナル

2020 年の東京五輪が、本格的に「中止」となる可能性が浮上した。

2020 年夏のオリンピックの東京への招致に関連して、日本側が国際陸上競技連盟に協賛金を振り込んだ可能性があるとしてフランスの検察当局が明らかにし、本格的に捜査を始めた件。仮に不正が見つければ、開催地が「ロンドン」に変更される可能性があるとして、海外 mailOnline が報じた。

東京五輪招致委員会は、シンガポールのブラック・タイディングス社に 2 回にわたって 2 億超にもなる金額を送金。受け取ったのは国際陸上競技連盟会長ラミーヌ・ディアク氏の息子、パパ・ディアク氏とのこと。JOC はこの金銭のやり取りを「コンサル料」や「成功要因分析」としているが、受け取りの張本人であるパパ・ディアク氏と現在連絡が取れず隠れているという状況を考えれば、説得力には乏しいだろう。この「裏金問題」には、五輪開催の際にそのマーケティング部分を掌握する大手広告代理店の電通が絡んでいるという情報もあるが、ペーパーカンパニーを経由して送金していたという事実からも疑いの目を向けざるを得ず、堂々とコンサル費を支払わなかった事実も説明がつかないだろう。まだ不正が確定したわ

けではないが、極めて厳しい状況といえる。最終的には IOC が決定を下すので一概にはいえないが、情勢は最悪である。

ネット掲示板や経済アプリなど、様々な媒体で様々な人が意見を出しているが、もはや東京五輪への期待や希望など皆無に等しい。

「中止なら残念だが、仕方がない」「多額の税金が無駄になるけど言い訳のしようがない」「いっそこで中止にすれば余計な費用負担がなくていい」「これ以上恥をさらす前に」などなど、もはや開催に関してネガティブな回答だらけの状況。

もともとエンブレム問題に競技場ならびに開催にかかる費用の問題などゴタゴタ続きだった東京五輪への動き。開催後の財源と終了後の施設維持や利用をどうするのかもはっきりせず「負の遺産」が残される可能性も指摘されていた。結局は中には今回の中止可能性の報道を「朗報」と捉える声すらある。2020 年後のことを考えずに突っ走る「老人たちの自己満足」が寸断されたという理由からこういった声も非常に多いのだ。

象徴的なのは、東京五輪・パラリンピック大会組織委員会の森喜朗会長である。森会長は 16 日、「NEWS23」（TBS 系）に出演し、大会経費が大幅に増える問題について「最初から計画に無理があった」と発言。何を今さら、他人事かという話である。その計画をコントロールしマネジメントするのがトップの務めだろう。「無理があった」の一言ですむなら簡単なこと。結局森会長をふくめ、大会を動かすトップ層が自分本意であることをさらけ出してしまった。財源が無尽蔵にあると勘違いしているからこそできるこの発言。さすがは失言の帝王といったところか。

もはや国民から「歓迎されない大会」に変貌しつつある東京五輪。政府や招致委員会、電通に東京都は、仮に本当に開催中止となったらどう責任を取るのか。開催しようがしまいが誰も喜べないこの状況に呆然とするばかりだ。舛添要一都知事どころではない。

<http://news.nifty.com/cs/economy/economyalldetail/bizjournal-22964/1.htm>

- アジアンレポート拡充のためボランティアスタッフを募集します。お問い合わせください。
- ニュースレターへの感想をお願いします。
- レター掲載原稿を募集します。

【愛川町雑感】

先日、愛川町文化会館で開催された町会議員との意見交換会に参加した。私が、町の公募委員としてまちづくりワークショップに参加し産業部会のチームリーダーとしてまとめ政策提言し、議会だより「町民の声」として投稿した町づくりの提案を、議会議長が「偏った意見」とコメントした。あきれ果てた見識のなさ。閉鎖性。議会からも町民の間からも、こうしたコメントに反論も出ない。町長選挙の投票率は 3 割。これを分け合って誕生した町長。コンサル任せの町。少しだけ動きは出てきた。あまり期待できないが、もう少しだけ付き合うことにする。

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：江藤セデカ  
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343  
支部愛川サライ〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314-1  
TEL：046-285-4895 FAX：046-265-0167 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp  
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振込の場合：ゆうちょ銀行〇一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ 会費、ご寄付はこちらへ。会費は正会員年間 1 口 3,000 円、学生会員 1,000 円、賛同会員 2,000 円。一口以上のご協力をお願いします。

<http://eurasianclub.org/>

2016 0601 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：加藤九祐先生の後をついて北方ユーラシア学会の創設、ユーラシアンクラブの創設、途中文化庁の芸術情報プラザのトータルアドバイザーとして文化のまちづくりのお手伝いをしながら、アジアの文化の形成、源流という茫洋とした世界に逍遙し、身を任してきたが、そろそろ見えるべきものは見えた。人の世の性、悲しさも面白さも見える感がある。今回縁あってトルクメニスタンを訪問する機会があり、アルタイ山脈で発掘したアフアナシェヴォ古墳に始まった人類史の旅はコペトタグ山脈のアバ アナエフ村というアハルテケ文化発信地訪問で終わった。少しまとめておくことにする。三部、四部、五部くらいは書けるだろう。それで終わりとする（お）